

別紙様式2(高)

平成26年度茨城県立坂東総合高等学校自己評価表

目指す 学校像	(ア) 一人一人の生徒を大切に、きめの細かい指導を行う学校。					
	(イ) 一人一人の個性を伸ばし、自己実現を図る学校。					
	(ウ) 地域に開かれ、社会に貢献する学校。					
	(エ) よりよい自然環境、生活環境に配慮する学校。					
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標		達成状況	
ティームティーチングや習熟度別学習を取り入れたきめ細かな教育活動を展開し基礎学力の向上に努めたい。授業参観などの校内研修を充実し、分かる授業の工夫を図りたい。		ア 基礎学力の向上を図る。	①生徒一人ひとりの能力に応じた分かりやすい授業の創意工夫により、各教科・科目の興味・関心を高め学力の向上を図る。 ②ティームティーチングや習熟度別授業の充実を図る。		B	
スクールカウンセラーを年間を通して活用し、不登校や自虐的傾向の生徒などのフォローにあたりたい。また、交通事故防止に努め、公衆道徳やマナーの充実を図りたい。		イ 基本的な生活習慣の確立を図る。 ウ 教育相談の充実を図る。	③規律ある学校生活を送るため、ホームルーム活動や年次集会、学校行事等を通して、正しい判断による自己表現力と豊かな人間関係の醸成を図る。 ④心の健康を大切に、生徒の心の悩みを解決するため、教育相談の充実を図る。		B A	
部活動では参加生徒が少ないので、活性化を図り、結果を残せるよう一層の努力と工夫を重ねたい。		エ 特別活動の活性化を図る。	⑤部活動に意欲的に参加し、活動が継続できるように顧問教師と部員及び部員相互の望ましい人間関係の醸成に努め、部活動の活性化を図る。 ⑥HR活動・生徒会活動・学校行事の活性化を図る。 ⑦人間としての在り方生き方を学び、進路意識を高める。		B	
産業社会と人間の授業やインターンシップを通して、望ましい職業観や勤労観の養成に努めた。公開講座ジョイ猿島として、食品加工講座・コンテナガーデニング講座等を開設し、地域との連携・交流に努め、地域貢献を図るとともに、地域からの信頼確保に努めた。		オ 進路指導の充実を図る。 カ 特色ある施設・設備を生かした地域との連携交流を図る。	⑧インターンシップを通し、望ましい職業観や勤労観を養成し、生徒の進路意識の高揚に務める。 ⑨農業関連特有の施設・設備を最大限に生かして、食の安全安心等に係る、特色ある開放講座や体験講座を開設し、地域との連携・交流に努め、地域に貢献するとともに、地域からの信頼を確保する。		B B	
評価項目	具体的目標	具体的方策	番号	評価	次年度(学期)への主な課題	
教 務	地域や生徒の実態を把握し、特色ある教育課程の編成に努める。	中学校・地域との連携を図る。	⑨	A	教育課程の見直しを進める。	
		生徒の多様な進路に応じた教育活動の計画を立てる。	①②⑧	A		
		3年間を通した到達目標・指導計画の確立を図る。	①⑦	B		
	魅力ある学校生活を目指しながら、授業の量的確保と質的充実を図る。	行事等の能率的な運営を図る。	③⑥	A	B	曜日別授業時数の偏りを解消するように努める。
		授業終始時刻の厳守に努める。	①③	B		
		出張・年休等における授業の確保(振替)に努める。	①	B		
	自主的学習意欲を高める効果的な学習指導法の研究実践を図る。	各教科間の連携を密にし、生徒の実態に即した年間指導計画と、その計画に沿った学習指導ができるように努める。	①②	A	A	研究授業をより多く実施する。
		分かる授業の実践及び授業の創意工夫ができるように研究授業の実施に努める。	①②	B		
	系列の特色を生かし、魅力ある授業及び体験学習を展開し、学習意欲の向上を図る。	学習意欲の低い生徒・学力の低い生徒への計画的な指導を行う。	①②	A	A	系列の特色を生かした魅力ある授業の工夫に努める。
		進路実現のため資格取得などの具体的目標を設定し、学習に取り込む姿勢や学習意欲を高める指導の工夫改善を図る。	①②	A		
職員研修を推進し、資質の向上を図る。	人権教育等についての教職員研修会を充実させる。	①	A	A	各種職員研修の実施を図る。	
	研修の成果や情報を教員間で共有できるように努める。	①	A			

生徒指導	基本的生活習慣の確立をはかる。	週番活動並びにさわやかマナーアップ運動を展開し、正門立哨指導であいさつの励行に努める。	③	A	A	・遅刻者に対する指導の徹底を図り、基本的生活習慣の確立に努める。	
		服装頭髪指導を定期的に行い、保護者と連携を密にして、きちんとした身だしなみを身につけさせる。	③	A			
	交通安全教育の充実を図る。	交通立哨指導を春・秋の交通安全運動期間と毎月交通安全の日に実施し、事故防止に努める。	③	B	A	・登下校時における自転車の乗り方、交通規則について指導の充実を図る。	
		自転車点検を定期的に行い、不良箇所の改善と安全運転を呼びかける。	③	A			
		原付通学者に対して許可試験と実技講習会を実施し、交通ルールとマナーの確認並びに運転技術の向上に努める。	③	A			
		交通講話を開催し、生徒の安全意識の高揚を図り、事故防止に努める。	③	A			
	教育相談を充実し、生徒理解を深める。	二者面談を行い、生活状況把握や悩み事等の相談の機会を持ち、生徒理解に努める。	④	B	B	・個別面談の機会を充実させ、生徒理解を図る。	
		三者面談を行い、家庭との連携を深める。	④	A			
		スクールカウンセラーを活用し、生徒の心の悩みを解決する。	④	A			
		生徒指導研修会を行い、生徒理解に基づいた指導方法の認識を深める。	④	B			
	問題行動の未然防止に努める。	校内巡回指導を行い、生徒の状況把握と問題行動の未然防止に努める。	③④	A	B	・地域との連携を図り、更なる関係構築に努めたい。 ・SNSの正しい利用方法および、情報モラルについて指導の充実を図る。	
		校外巡回指導を行い、地域関係機関と連携し、問題行動の未然防止に努める。	③④	B			
		ケータイ・ネット安全利用についての講習会を開催し、家庭での携帯電話利用に関するルールづくりやフィルタリングの利用促進を図る。	③④	B			
		不審者や校外での問題発生時に迅速に対応できるように努める。	③④	A			
	進路指導	人間としての在り方生き方の指導の一層の充実。	教育活動全体を通じたガイダンス機能の充実。	③⑦	B	B	・ガイダンスや進路相談など、各学年での工夫が見られるようになった。他学年との情報の共有が必要。
		望ましい職業観・勤労観の形成と主体的な進路選択能力の育成。	自らの意思と責任で、進路を主体的に選択する能力や態度を育成する指導の工夫。	③⑦⑧	B		
インターンシップの充実を図り、職業選択や職業適性について考えさせる機会を与える。			⑦⑧	B			
進路相談の計画的・継続的な実施。			⑦	B			
進路に対する理解と協力を得るための保護者への啓発。	保護者への継続的な進路啓発活動の実施。	⑦	B				
保健厚生	心身の健康に対する意識を高める。	保健便りや保健ニュース等の掲示により、情報を提供する。	③④	A	A	・健康診断もれ者の指導を徹底する。保健行事をより充実させ心身の健康・安全意識の高揚に努めたい。	
		教科「保健体育」と連携し、防止教室や性に関する講演会を実施する。	①③	A			
	校内環境の整備・充実を図る。	ゴミの分別処理を徹底し、トイレや手洗い場等における衛生管理の維持改善を図る。	③	B	A	・環境整備の備品充実と活動の円滑化を図り、校内の美化に努めたい。	
		校内美化日を計画し、学習環境を整備する。	③	A			
	安全対策の強化に努める。	緊急対策マニュアルを周知徹底する。	③④	B	A	・緊急対策マニュアルを、毎年度一回は見直したい。地域との連携による防災力の強化を図る。	
		危機意識を高め、安全確保につながるように避難訓練の内容を工夫する。	③	A			

図書	図書室の資料の充実に努める。	幅広い蔵書構成を考えながら、資料の充実に図る。	③	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・視聴覚教材の充実と活用の推進。 ・校内の読書感想文コンクールへの参加者を増やす。
		職員・生徒の希望図書を購入する。	⑥	A		
	視聴覚資料の収集・整理・保管に努める。	視聴覚教材を整理し、さらに授業や学校行事等で使用するビデオ・DVD等を購入し使いやすく提示する。	⑥	B	B	
	読書に興味関心を持たせるような指導に取り組む。	校内読書感想文コンクールを実施する。	①	A	A	
		上記コンクール入選者の表彰および入選作品集を作成する。	①	A		
	図書委員会活動の活性化に努める。	カウンター作業や書架の整理をする。	⑥	A	A	
	各種統計を作成する。	⑥	A			
図書室の広報活動に取り組む。	図書館報,図書館だよりを発行する。	⑥	A	A		
	新規購入図書や各種統計を掲示する。	⑥	A			
渉外	保護者の各行事への参加意欲の向上を図る。	各行事に創意を加え、参加保護者の定着と意欲向上をはかる。	⑨	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・行事撮影用のデジカメを用意してPTA便りをつくりたい。 ・保護者の負担軽減を継続したい。
	継続的な重点行事を掲げその充実を図る。	PTA総会とPTA支部会を同時開催し、保護者の負担軽減を図る。また内容の精選・充実を図り、その活動の支援を行う。	⑨	A		
	教職員と保護者の連携を密にし、生徒の健全育成を支援する。	PTA総会や支部活動、PTAだよりなどで保護者と教職員間の連携を図る。	⑨	A		
特別活動	生徒会活動を活発に行うようにする。	「さわやかマナーアップ」運動の取り組みとして、朝の立哨指導に参加させる。	③⑥	B	B	生徒会活動に積極的に参加できるよう意識づけをさせるとともに、生徒の参加出席率を向上させたい。
		学校行事の運営に積極的に携わる。	③⑥	A		
	望ましい集団生活を通して、自主的・実践的な態度を育てる。	文化祭で生徒の発表の機会を設ける。	③	A	A	より効率的な活動を行うために、さまざまな意見を出し合い、行事、ボランティア活動のスリム化を図りたい。
		空き缶回収のボランティア・募金活動に積極的に参加させる。	③	A		
部活の推進をはかる。	部活動見学期間を設け参加を働きかける。	⑤	B	B	3年間を通じて継続し、進路実現につなげたい。	
農場	勤労の尊さを自覚させ、働く喜びを感じさせる。	インターンシップを通して望ましい勤労観・職業観を養成し、働く喜びを感じさせる。	⑦⑧⑨	A	A	関係機関との連携を密にし、受け入れ先の開拓に努める。
	特色ある施設・設備を生かし、実験実習の充実を図る。	生徒一人一人の能力に応じた実験・実習を展開し、興味関心を高め、基礎的な知識・技術の習得を図る。	①⑨	A	A	各単元の目標を明確にして、興味関心を高めていく。
	学校農業クラブ活動を充実させることにより、各種の行事で活躍できる生徒を育てる。	各科目において自らの目標をもち、自ら課題を解決しながら自ら学ぶという姿勢を身につけさせる。	①⑧⑨	B	B	各科目において学校農業クラブ活動の充実を図る。
事務	会計の効率的で適正な執行に努める。	教育活動が円滑に進められるよう適時・効果的な予算執行に努める。		B	B	もつともつと効率的な予算執行を行いたい。
		節電・節水に努め、光熱水費使用量の削減を図る。		A		
	開かれた学校づくりをめざす。	電話での応答や来校者への丁寧な対応に心がける。		A	A	
		学校行事等の広報に努める。	⑥⑨	B		
施設、設備等の適正な管理に努める。	安全な教育環境を保持するため、施設・設備を適切に管理する。		A	A		

1年次	基本的生活習慣の確立	基本的な生活習慣を身につけ、はじめのある行動を取れるようにする。	③	B	B	授業への取り組みは、日に日に良くなっているが、遅刻・欠席の多い生徒が改善できるように指導していきたい。	
		学年集会、ホームルームで校則、生徒心得を理解させる。	③	A			
	社会性が不足する生徒には、カウンセラーを積極的に活用する。	④	A				
潤いのある人間関係の確立		自分の長所、可能性に気づかせ、健康で明るく充実した学校生活を送らせる。	④⑨	A	B	道徳を始め、様々な機会をとらえて話はしているが、向上心をさらに育てる仕掛けがあるとよい。	
		謙虚な気持ちを植え付け、向上心を培っていく。		B			
将来像の確立と進路の選択		産業社会と人間によって幅広い進路選択が出来るように情報伝達をする	⑦	A	B	わかりやすい情報をこまめに出していき、資格取得・部活動推進を図りたい。	
		学習に前向きに取り組ませ、資格取得・部活動を推進する。	⑤	B			
2年次	基本的生活習慣の確立	服装頭髪指導を定期的に行い、保護者と連携を密にして、きちんとした身だしなみを身につけさせる。	③	A	B	特定の生徒の遅刻、欠席が目立つ。改善の方法を検討したい。	
		責任とはじめのある、落ち着いた行動と生活態度を身につける。	③⑥	B			
	潤いのある人間関係の構築	誰に対しても優しい気持ちで接し、いじめのない明るい高校生活を送る。	誰に対しても優しい気持ちで接し、いじめのない明るい高校生活を送る。	③	B	B	人間関係を上手く構築できない生徒への指導を深めていきたい。またそれを受け入れていく生徒を作りたい。
			保護者との連携を密にし、問題解決に向けて常に調和の心で対応する。	④	A		
	進路意識の高揚		インターンシップで進路意識を具体化させると共に勤労の大切さを実感させる。	⑦⑧	B	B	生徒が将来の職業を選ぶのに必要な経験をより具体化できるような企画を検討していきたい。
個別面談で生徒・保護者の意向を聞き、生徒の個性に応じた適切なアドバイスを行う。			⑦	A	A		
3年次	基本的生活習慣の確立	進路実現に向け、身だしなみとしての服装・頭髪さらに言葉遣い等について生徒に繰り返し指導する。	③	B	B	努力する生徒としない生徒の差が目立ち、生活のリズムを改善することが非常に難しい。保護者の前向きな協力がなければ、学校だけでの指導では本質的な改善は臨めない。	
		保護者との連携を密にして生徒理解に努めると共に、最終年次としての充実した学校生活を送らせる。	③	A			
	進路に応じた学力の向上。	検定・資格試験・模擬試験に挑戦することにより学力の向上を図る。総合学習の時間を利用し実践力を養う。	検定・資格試験・模擬試験に挑戦することにより学力の向上を図る。総合学習の時間を利用し実践力を養う。	①	B	B	ガイダンスや進路相談など進路の実現に向けて総学の時間を充実したものにしてい。今回、総学の発表も各系列それぞれ特色を出すことができたが、後半の時間が少なすぎる
			検定・資格試験に合格することにより進路実現の一助とする。総合学習の授業を通し実践的知識の向上を図る。	⑥⑦	B		
希望進路の実現。	二者・三者面談を通して適性に応じた進学先・就職先を決定する。。	⑥⑦	A				
国語科	国語を的確に理解する能力を育てる。	漢字力を養成するために、授業において計画的・段階的な指導を行う。	①	A	A	何らかの目標設定が必要。	
	言語感覚を磨き、意思を伝える能力を育てる。	個々の生徒が、意見・感想を書くことができるような表現指導を行う。	①	B	B	個々の生徒の能力に配慮する必要がある。	
	思考力や考え方を深め、心情を豊かにする態度を育てる。	多くの作品に親しむことにより、多様な価値観に気づかせる。	①	B	B	教材に応じた指導時間について、教員間の共通理解が必要。	

地歴・公民科	生徒の学力に応じた分かり易い授業展開する。	授業計画は都度都度見直して、生徒の実態に合わせて柔軟に変更する。	①	A	A	・引き続き生徒の学習上の問題点などの実態把握に努め、より適切な指導を目指す。	
		授業終了後、指導内容・方法について点検し、改善すべき点を考える。	①	A			
	基礎学力の向上を推進する。	授業内容を基礎的基本的事項に精選し、丁寧な解説を通じて確実に理解させる。	①	A	A	・生徒が自発的に復習できるように工夫する。・視聴覚教材の更なる充実を目指す。	
		レジュメを配布し、生徒本人が学習内容を反復学習しやすいようにする。	①	B			
		練習問題プリント等を利用した復習を行い、学習内容の定着を図る。	①	A			
		定期考査の前には総復習を行い、考査後は定着度の低い部分について再度解説して学習させる。	①	A			
		視聴覚教材の積極的な利用を通じて、ビジュアルな形での理解を図る。	①	B			
	生徒が学習内容をより具体的に把握できるように、授業方法の改善に努める。	教科内の相談を密にし、授業内容・方法について互いにアドバイスし合う。	①	B	A	・教科内での情報・意見交換を一層密にし、相互の研鑽・協力・研修を強める。	
		様々な機会を利用して自己研修に努め、その成果は教科会で互いに情報交換する。	①	A			
		年数回、教科全員で学校内外での研修会を企画し実施する。	①	A			
	数学科	基礎学力の定着	基礎学力検査の結果を利用し、習熟度別授業や個に応じた指導を行う。計算プリントを実施し、基礎計算能力を向上させる。	①	B	B	・計算プリントの内容を基礎学力検査につながるようにし、2年間継続できるものを用意する。 ・複数の教員で連携し、補習や課外の充実を図る。 ・九九や平方根の値など、基礎の定着を図る。
			基礎学力検査の内容を見直し、生徒の能力を正確に分析する。	①	A		
習熟度別授業および系列別の授業において、机間指導を増やして個に応じた指導を行う。必要に応じて、数学を得意とする生徒の力を伸ばす指導を行う。理解が不十分な生徒に対しては、補習を実施し、理解度の向上を図る。			①	B			
長期休業中の課題に加えて、定期課題を課す。提出物の機会を増やし、こまめに生徒の学習状況を把握する。			①	B			
数学が分かる喜びを実感する授業への取り組み		1年次のチームティーチングの授業においては、2人の教師の連携を密にし、協力して授業を実施する。机間指導の分担や流れを確認し、多くの生徒に対する適切な指導を図る。	②	A	B	・意欲的な生徒に対して、数学検定に向けた課外を実施する。	
		授業内に数学検定の問題を取り扱うことで、生徒の意欲を向上させ、合格に向けて計画的な指導を行う。	①	B			
理科		知的好奇心や探究心を喚起し、自然に関する興味・関心を養う。	授業の展開に創意工夫をこらし、魅力ある教科指導に努める。	①	A	A	・生徒の実態に合わせて、引き続き基礎基本の徹底と分かりやすい授業を徹底する。 ・観察・実験の時間の更なる充実を図り、生徒の科学的な思考力と表現力を養う。 ・実験器具や設備の充実を図る。
	科学的に自然を調べる方法や技術を身に付け、問題解決能力を養う。	観察・実験を適切な時期に行い、かつ事前指導や考察の時間を十分に取るようにする。	①	A	A		
		生徒が自分の意見や考えを検証したり、発表したりできる機会を適宜設ける。	①	B			
	自然に関わる基礎基本的な知識を身に付け、科学的な自然観を育成する。	重要事項をおさえ、必要に応じて反復練習や小テストを取り入れ、基礎基本の徹底を図る。	①	A	A		
		基礎基本から、自然を統合的にみる見方や科学的なものの見方を養えるよう、分かりやすく授業を展開する。	①	A			

英語科	基礎学力の定着を図る	音読指導に重点を置き、音読テストや口頭テストを生徒個別に実施するなど、音声面での基礎学力の定着を図る。	①	B	B	習熟度別授業では発話などの音声面で課題が残った。	
		習熟度別を併用した少人数授業を展開し、個々の能力に応じたきめ細かな指導を行う。	①	A			
	英語が分かる喜びを実感する授業の展開に努める	ALTとのティームティーチングを活用し、英語に興味・関心を抱かせる授業の創意工夫に努め、コミュニケーション能力の育成を目指す。	②	B	B	TTの授業ではALTが中心となって授業を行ったが、今後は生徒が積極的に発話できるように、授業の改善が必要と思われる。	
		教師間の連携を密にして、協力して授業内容や指導法、教材を工夫改善する。	①	B			
資格取得の充実を図る	英検取得に向けて、級別または個別に課外を実施し、計画的・段階的な指導を行う。	①	A	A	次年度も早期に課外授業の計画を立て、指導にあたりたい。		
家庭科	家庭生活へ積極的に参加する意欲・関心を養う。	社会の最小単位である「家庭」について興味・関心をもたせる。	①	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度同様、実習・実験の時間をできるだけ多く確保し、基礎・基本の技術を修得させる。 ・生徒の実態に合わせた教材を研究し、生徒が自ら進んで取り組み、楽しみ、実生活に生かすことができるような授業を目指す。 ・現代の社会に対応した具体的な事例を提示し、五感に訴える授業を展開していく。 ・教科内の情報共有に努める。 ・生徒一人一人の習熟度に合わせた指導を心掛ける。 	
		高齢期を自分の一生の問題として考えることができるとともに、同時代を生きる高齢者との交流が図れるように、高齢者の生活、高齢者の介護についての基礎的な知識を習得させる。	①⑦	A			
		将来親になることへの責任や、子どもを持つことの意味を考えると同時に、子どもの心身の発達、乳幼児の基本的な生活課題、子どもの保育、児童福祉についての基礎的な知識を習得させる。	①⑦	A			
	家庭生活に関する基礎的な知識と技術を習得させる。	①⑦⑧⑨	A	A			
	家庭経営の立場から家庭生活の充実向上を図る能力を育てる。	消費生活・住生活などに関する基礎的な知識を習得させ、一人の家庭人・社会人として自立した生活が送れるように指導する。	①③	A			B
ひとりひとりの消費行動が、資源・環境問題と大きく関わりがあることを理解させる。	①③	B					
保健体育科	基礎体力の向上を図る。	体力トレーニングを継続的に実施し、生徒の体力向上に努める。特に、必修種目については、生徒及び保護者に周知し完全実施に努める。	①	A	A	生徒一人一人に目を配り、より一層の運動時間の確保に努める。	
		生徒の体力に合わせ、運動時間の確保に努める。	①②	A			
	集団行動の充実を図る。	集合、整とん、列の増減、方向変換、挨拶等を継続的に指導する。	③	A	A	各年次でもう少し指導を徹底させる必要がある。	
	基本的な生活習慣の確立を図る。	健康の保持増進についての知識を学び、実践力の育成に努める。	①	B	B	体育理論を通して、知識の習得をもう少し図る必要がある。	
芸術科	基礎学力の向上を図る。	生徒一人ひとりの能力に応じた分かりやすい授業の創意工夫を行う。	①	B	B	生徒一人一人の能力に応じた指導については、さらに創意工夫を進める。	
		生徒が自主的に取り組む指導を図る。	①	A			
	感性と技術の向上を図る。	芸術における基礎・基本を身に付けさせ、感性を育てる。	①	A			A
	魅力的な授業の展開を図る。	生徒を引きつける魅力的な授業の展開を図る。	①	A			A
資格取得の充実を図る。	硬筆検定・毛筆検定等の資格取得に向け、指導・助言を充分に行う。	①	A	A			

情報科	情報機器の基礎的な知識と技術を高める。	中学校での学習の程度を踏まえ、生徒のレベルに伴った指導を行う。	①	A	A	基礎的・基本的な技能の習得を図る上で、基礎固めを丁寧に行う必要がある。
		実践的な実習を通して、基本的な情報機器活用の技能を習得させる。	①	A		
	情報を主体的に活用する態度および実践力を育てる。	情報通信ネットワークの適切な活用を積極的に取り入れる。	①	A	A	情報の活用の際、言語活用を通じコミュニケーション能力の向上に努める。
		情報社会に参画する意欲の向上を図る。	情報モラルと情報セキュリティ意識の育成を目指す。	③	B	B
商業科	基礎・基本的な学力の向上を図る。	小テストを行い、学習の理解度を把握し、基礎的基本的な知識の向上に努める。	①	A	A	資格取得や就職活動、進路実現など、目標を持った意欲的な学習を通じて、知識・技術の習得や、商業科目に対する関心を深めさせる必要がある。
		興味・関心の持てる教材を活用し、分かりやすい授業展開に努める。	①	B		
	商業人として社会に通用する能力を育てる。	身近な話題を取り組む授業を展開し、学習内容の理解を深めさせる。	①	A	A	職業観が不足しているため、商業の学習について深く理解させるとともに、関連性と結びつけた学習を行う必要がある。
		ビジネスを学ぶ人間として、社会のモラル・ビジネスマナーの高揚を図る。	①	A		
	資格取得を支援する。	資格取得に対する意識付け等、資格取得に向けた指導を行う。	①	A	B	資格取得などの成功体験を通じて自信を持たせるため、課外や補習など充実を図る必要がある。
		補習等を行い、検定に合格できる能力を養う。	①	B		
判定基準	A:大変良くできた B:良くできた C:やや不十分 D:不十分					

